

# 環境方針・環境活動推進

コーセーでは、環境マネジメントに関する国際規格「ISO14001」の基本的な考え方をベースに、CSR活動全般に関する意思決定を「CSR委員会」が行い、「CSR推進委員会」と傘下の環境ワーキンググループが中心となって環境活動を推進しています。

## 環境基本方針

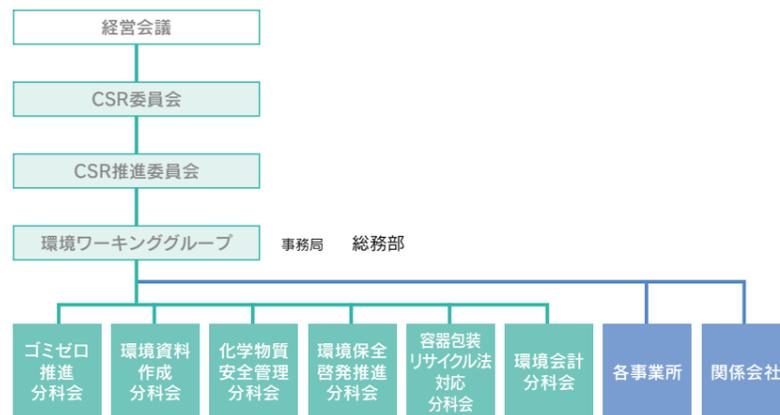
- ① 生物多様性や環境保全に配慮し、省資源、リサイクル、省エネルギー、廃棄物の削減等に努めます。  
コーセーは材料・資源の減量化の推進やリサイクル材料の積極的活用、廃棄の容易な材料を活用した商品化、工場やオフィスなど全ての事業所での廃棄物の減量化と分別収集の徹底などを目指した企業活動を展開していきます。
- ② 常に環境負荷低減型の原材料の使用、および商品の研究開発に努めます。  
環境汚染を防ぐために、特定材料や原料の削減、使用禁止等についてはガイドラインを作成して徹底しています。また、環境にやさしい原料や材料の研究開発も積極的に進め、商品化に生かしたり、包装材料の簡素化や軽量化に役立てています。
- ③ 環境関連の法律や規則を遵守し、環境保全に関する社会活動に積極的に参加します。  
容器包装リサイクル法等を遵守するだけでなく、工場排出物等に関しては社内規制を強化して環境汚染の防止に努めるとともに、各事業所周辺の環境向上運動や地球環境保全事業への積極的支援なども行っています。
- ④ 環境保全活動を推進するための組織を整備し、継続的な活動を展開します。  
1997年に地球環境委員会を設置、また2013年4月にはCSR委員会へと改変し、活動の推進と関係各部門への働きかけを組織的に行うとともに、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを積極的に導入し、実施しています。
- ⑤ 環境保全に関する教育、広報活動等を通して社員の環境に関する意識の向上をはかります。  
活動の原点はまず社員からという考えのもと、職場におけるエコ改善事例や提案等の募集、社内報を活用した情報提供などを通して、社員の意識向上に努めています。

コーセーの生物多様性への考え方  
コーセーは、生物多様性からもたらされる恵みを尊重し、世界が直面する環境課題を自社にも関わるものとして、地球環境保全に取り組んでいます。事業活動においては、生物多様性と事業の関わりを把握し、影響の低減に努めています。さらに、社内情報共有を推進し、全社員に向けた啓蒙活動を行うとともに、社外へも情報を発信しています。

## 環境マネジメント

2013年より新たに発足したCSR委員会、CSR推進委員会の下に環境ワーキンググループを設置し、全社的な環境マネジメントシステムを構築しました。これにより、事業活動の一環として、地球環境の保全に向けた取り組みをより一層強化していきます。

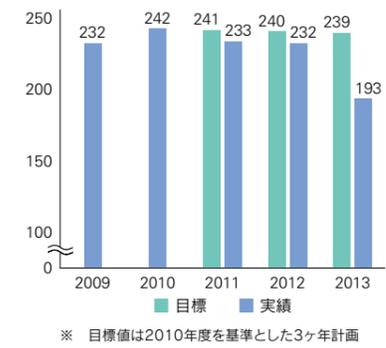
環境マネジメントシステムの組織体制図



## 産業廃棄物の内訳とリサイクルの推進

コーセーは、可能な限りリサイクルを実施し、単純廃棄処分の減少を基本方針として取り組んでいます。2013年度は、総排出量が微増しましたが、生産量が増加したため、1000打あたりの廃棄物量は大幅に減少しました。産業廃棄物の99.9%以上が再生プラスチックや堆肥、燃料にリサイクルされています。各職場においても分別・回収を徹底し、リサイクル率の向上、廃棄物量の削減に努めています。

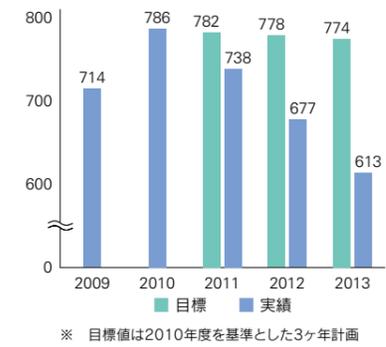
産業廃棄物量の推移と目標 (kg/1000打)



## CO<sub>2</sub>削減の目標と実績

生産段階における二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を、2013年度までに2010年度レベルの98.5%にすることを目標に取り組んできました。(単年度の削減目標は0.5%) 2013年度は、目標値774(kg/1000打)に対し、613(kg/1000打)という結果で、目標値を大きくクリアすることができました。

CO<sub>2</sub>排出量の推移と目標 (kg/1000打)



## CO<sub>2</sub>削減の取り組み

コーセーは、企業の社会的責任の一つとして環境への影響に配慮し、2000年度に群馬工場にてISO14001の認証を取得し、2002年度に狭山工場、2003年度に関係会社工場でも認証を取得しました。工場の建屋を含めた省エネ技術も研究し、建屋・設備のハード面と生産技術のソフト面の両側から省エネ化に取り組んでいます。



2012年から、天然ガスを利用した環境にやさしいコージェネレーションシステムを稼働

2013年度狭山・群馬事業所の環境負荷データ

	2013年度	2012年度との増減量
電気エネルギー	8,768(単位/1,000kw)	▲426
重油・灯油	304(単位/1,000L)	▲39
天然ガス	796(単位/1,000Nm <sup>3</sup> )	70
水	235(単位/1,000m <sup>3</sup> )	▲3
原料	8,619(ton)	223
容器・包装材料	6,507(ton)	388

INPUT

コーセー主力工場(2拠点)

狭山事業所 群馬事業所

OUTPUT

	2013年度	2012年度との増減量
大気への排出		
CO <sub>2</sub>	6,138(ton)	▲563
NOx	718(ton)	▲4,077
SOx	0.589(ton)	0.257
工場排水の排出		
排水量	139(単位/1,000m <sup>3</sup> )	▲1
BOD*	9.190(ton)	▲5.172
SS*	0.290(ton)	▲6.350
n-Hex*	2.820(ton)	2.305
化学物質の排出 (PRTR対象物質)		
大気	1.3(ton)	1.3
産業廃棄	0(ton)	±0
産業廃棄物の搬出		
総排出量	2013.7(ton)	43.7
再資源化	2,009.9(ton)	
マテリアルリサイクル	993.8(ton)	
ケミカルリサイクル	112.0(ton)	43.7
サーマルリサイクル	904.1(ton)	
単純焼却	4.0(ton)	3.7

※ 水質汚濁の指標として用いられる指標。BODは生物学的酸素要求量(水中の有機物などが微生物により分解される際に消費される酸素量)、SSは浮遊物質(水中において懸濁している物質)、n-Hexは水中に含まれる油分(鉱物性、動物性、植物性)の総量

その他のデータについては、Webサイトをご覧ください。  
企業情報 > CSR > 環境への取り組み  
<http://www.kose.co.jp/jp/ja/company/csr/environment/>

## 限りある資源を守る取り組み

コーセーグループでは、環境に配慮した原材料を採用するだけでなく、使用済み容器の廃棄量削減も考慮した商品づくりを行っています。

商品の1個箱や、化粧品の使い方などを説明する能書、パンフレット、ダンボールなどには、基本的に再生紙を使用しています。さらに、能書を箱の外側もしくは内側に直接印刷し、別紙を添付しない工夫をしています。また、森林保護のためにバガスなど、木材を使わない非パルプ紙を「ジルスチュアート」などで積極的に採用しています。ポンプ付け替え容器と詰め替えパウチ容器の採用も、容器材料使用量の削減に役立っています。

それに加えて、環境に配慮した原料の使用にも力を入れています。コーセーコスメポートの新しいボディソープ「サボンドブーケ」では、石油系洗浄剤を不使用とし、洗浄成分は100%せっけん成分としました。肌にも環境にも配慮した商品開発を進めています。



箱の内側に能書を印刷



箱の素材にバガスを使用

## 進化するパッケージ

コーセーグループでは環境に配慮した商品を開発する中、特にパッケージの分野で様々な工夫を重ねています。1992年の発売以来、長年ご愛顧いただいている「コスメテコルテ モイストチュアリポソーム レギュラーサイズ」では、容器がガラス製であるため、プラスチック製の肩カバーを外して分離廃棄したい、というお客さまからのご要望がありました。そこで、見た目や使い勝手には影響せず、ワンタッチで外すことのできる容器を開発しました。

2014年1月にリニューアルした「ファシオ」のマスカラシリーズでは、フィルム包装を採用することで、従来の樹脂量から、約7割削減することができました。この技術は、「雪肌精 サンプルテ

クト エッセンス」シリーズ等にも応用されています。

その他、紙製包材の開発にあたっては、シールやプラスチック窓を削除し、紙のみの単一包材とすることで分別廃棄を容易にする工夫も行っています。

今後も、お客さまのご要望や市場のニーズに配慮しながら、環境にやさしい商品の開発を進めていきます。



簡単に分離できる設計の容器



フィルム包装の採用